

～水を安定的に送水するために～

通水管の空水調査を実施

令和元年11月下旬～12月上旬に、霞ヶ浦用水の通水管（1号サージタンクから2号サージタンクまでの区間約6.5km）から水を抜いて、管内部状況の調査を実施しました。

霞ヶ浦用水のパイプラインは、昭和63年度の暫定通水開始前に造られ、約30年以上用水の通水を行っています。このパイプラインは鋼管やダクタイル鋳鉄管で出来ており、長く使用していると錆が発生するなどの劣化が進み、場合によっては壊れて漏水してしまう恐れがあるため、適切な点検と補修が必要となります。

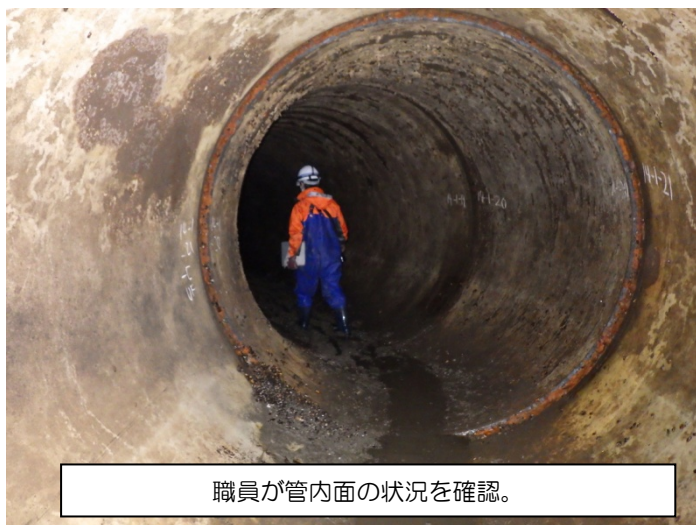
現在は、管内施設の状態調査が完了し、調査結果の取りまとめを行っているところですが、職員が管内確認したところ、異常はありませんでした。

【実施内容】

- ・目視調査・・・内面を目視により発錆やひび割れなどの確認を行います。
- ・たわみ量調査・・・縦横の長さを計測することで、円のたわみを確認します。
- ・継ぎ目間隔測定・・・ダクタイル鋳鉄管はつなぎ合わせているため、その間隔などを確認します。
- ・可とう管偏心測定・・・構造物の付近にはJ_m製の可とう管があり、その偏心を確認します。
- ・内面塗膜調査・・・鋼管の腐食防止のための塗装の厚さを確認します。



職員が管内面の状況を目視確認。



職員が管内面の状況を確認。



ダクタイル鋳鉄管の継ぎ目前後の角度を確認。



人が入れないところは自走式カマを走らせて確認。